

疼痛スケールの分類

	簡便	正確
客観的	Face scale	OPS
主観的	NRS	VAS

主観的疼痛評価(NRS, VAS)では、手術、手技の終了後に問診する必要があります。問診するタイミングが手術終了後から時間が経過するほど、軽度から中等度の痛みは記憶が薄れ、軽く評価される傾向があります。強度の痛み(抜歯時の局麻の痛みなど)はトラウマとして記憶に残りやすいです。

疼痛スケールの比較

現行のスケール

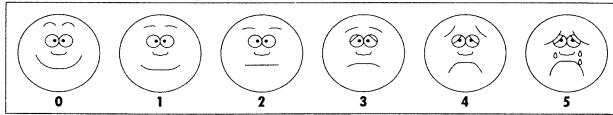
フェイススケール

メリット

- ・話せなくても評価できる
- ・質問する必要がない

デメリット

- ・評価者によって値が変わる
- ・スケールを覚える必要がある



新しいスケール

OPS

メリット

- ・評価者によって値が変わりにくい
- ・注意深い観察のみで評価できる
- ・リアルタイムに評価できるので、痛みの原因がわかる
- ・医療行為に対して評価が出来る
- ・色で危険度がわかる

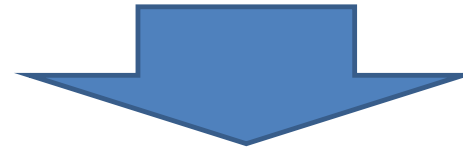
NRS (Numerical Rating Scale)

メリット

- ・数値で評価できる

デメリット

- ・質問する必要がある
- ・痛みを表現出来ない人には適さない
- ・痛みがある瞬間に評価することは難しい
- ・好きな数字・嫌いな数字に左右されることがある



デメリット

- ・使用できない領域がある
(癌性疼痛、心筋梗塞の痛み、術後の痛みなど)
- ・スケールを覚える必要がある

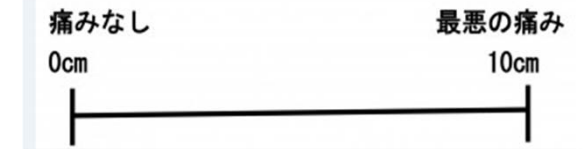
VAS (Visual Analogue Scale)

メリット

- ・連続した数値で評価するため正確

デメリット

- ・指で痛みの程度を指し示す必要あり
- ・メジャーが必要



- 0 : やすらかな表情
- 1 : 顔をしかめる
- 2 : 体動あり
- 3 : 痛みを訴える
- 4 : 繰り返し痛みを訴える
- 5 : 手技継続困難、または吸入・静脈麻酔追加